

若手起業家の出発、支援 四条河原町 来月1日、オフィス開設 住友不動産が関西初 / 京都

地域 | 京都 | 関西

毎日新聞 | 2024/3/26 地方版 有料記事 674文字



2024年3月25日にプレオープンした「GROWTH京都河原町」で開かれた京都市主催の交流イベント＝同市下京区で、南陽子撮影

京都市中心部の四条河原町に4月1日、若手の起業を支援するオフィス「GROWTH京都河原町」がオープンする。住友不動産（東京）が新たに展開している事業の一環で、関西では同日に開業する大阪・中之島と共に初進出。京都は大学の町で、学生を含む起業家にコワーキングや交流の場所として活用してもらい、投資家らとのマッチングを後押しする。

住友不動産は2023年から、東京都心で将来的に解体予定のビルのフロアなどを活用し、割安の初期費用や賃料のオフィス（GROWTHシリーズ）を渋谷や六本木など5カ所に開設。四条河原町では、交差点南東にある京都河原町ガーデン（1976年建て替え、旧京都住友ビル）の8階に設ける。

飲食店フロアの一角を改装した約160平方メートルに36席を用意。法人だけでなく個人でも月1万5000円で1席を使えたり、他のオフィスと相互利用できたりと借りやすいシステムにし、イベントには無償で貸し出す。京都は京セラなど世界的企業を生んだ土地柄で、学生が人口の1割の約15万人いる。新規事業への投資が東京に集中するなか、スタートアップ支援の適地と判断したという。

25日のプレオープンに合わせ、京都市は同社と連携協定を結んだ。初めて市内にオフィスを構える企業などに補助金を出す制度があり、新規事業の創出や企業誘致を目指す。市担当者は「同社が東京で持つテナントは約1800社に上り、魅力的だ」と説明する。

松井孝治市長は「京都がさらにわくわくする、世界初のベンチャーが生まれる拠点となるよう我々も全力を尽くす」と述べた。【野上哲、南陽子】

〔京都版〕